



中村正義

源平海戦絵巻 第四回『修羅』1936

東京展

『傷ましき腕』1936/49

岡本太郎



東京国立近代美術館蔵

川崎市岡本太郎美術館蔵
※会期中に一部作品の展示替えがございます。



山下菊二

『チリ・○○○』1975

神奈川県立近代美術館蔵



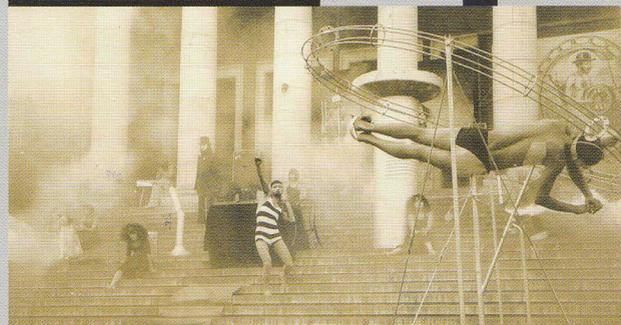
四谷シモン

『未来と過去のイヴ』1973
撮影：篠山紀信



寺山修司

天井棧敷『釘』1975
写真提供：テラヤマワールド



旧態依然とした日本の美術界に揺さぶりをかけるため、中村正義が構想し、文字通り自らの身命を賭して実現させた「東京展」——その目指すところは、全く新しい美術の共同体・組織の在り方でした。

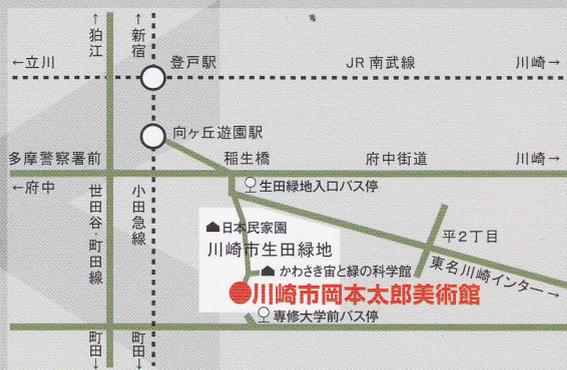
1946年、日展に初入選し、二度にわたる特選を経て審査員に推挙された中村正義(1924-1977)は、閉塞的な日本画壇に疑問を持ち、将来を嘱望されながらも日展を脱退。以後それまでの画風を一転させ、日本画の伝統美に抗う激しく挑戦的な作風を展開しました。

正義よりも一回り年長の岡本太郎(1911-1996)は、1940年に10年余り滞在したパリから帰国して二科展を活動拠点とします。1948年には評論家の花田清輝らと総合芸術運動を議論する「夜の会」を結成し、日本の芸術界全体の変革を目指しました。ここから太郎はアヴァンギャルドの旗手として美術の領域すら逸脱する多面的な活動を展開します。

若い画家たちとともに二科会内部からの変革を模索していた太郎が会を退いたのは1961年——奇しくも正義が日展を脱退した年でした。以後、太郎は縄文土器や民族学への探求をはじめ、モニュメンタルな壁画や立体造形など、ジャンルを越えた活動を行い、正義もまた多様な素材を用いた制作を行うほか、映画や舞台、写楽研究など、さまざまな分野に関わりました。そうした多面性と反逆精神こそが両者に共通する要素であり、東京展の精神へと結実していったといえるでしょう。正義を核として集った多様なジャンルの作家たちからの声掛けに、大阪万博などですでに知名度の高かった太郎が快く応じ、その祝祭的空間により一層強烈なエネルギーを注ぎました。

本展は太郎と正義の代表作を展観するとともに、二人の接点である東京展の再現を通し、彼らが求め、構想した「東京展」とは、何であったのか——、さまざまな角度からのアプローチを通して今一度検証したいと考えています。

TARO vs MASAYOSHI



交通 ●小田急線向ヶ丘遊園①南口から徒歩17分、一南口から市バス3分(5番のりば・溝口駅南口行・溝19系統)「生田緑地入口」下車、徒歩8分(1時間1~2本) ●北口から小田急バス約10分(2番のりば・専修大前行・向10系統)終点「専修大前」下車、生田緑地西口園路(通行可能時間8:00~17:30)を通って徒歩6分(1時間に2~6本) ●南口からタクシー4分(日本民家園前下車)、徒歩5分 ●溝口駅南口から市バス22分(2番のりば・向ヶ丘遊園駅南口行・溝19系統)「生田緑地入口」下車、徒歩8分(1時間1~2本) ●車利用の場合は、東名高速川崎ICから10分、府中街道「稲生橋」から2分(生田緑地東口駐車場をご利用ください)

企画「岡本太郎と中村正義 東京展」2015年10月17日~2016年1月11日関連イベント

①岡佐和香パフォーマンス『たたかひの万華草』

中村正義の後期作品の前で、女流舞踏家、岡佐和香が舞います。
出演：岡佐和香(舞踏家)、石川高(笙) / 日時：10月31日(土) 14:00~15:00 / 場所：岡本太郎美術館 企画展示室 / 定員：約50名(申し込み不要、当日先着順、要観覧券)

②笹木繁男講演会『正義が目指したもの』

「中村正義の生涯」著者、笹木繁男が「中村正義は何を求め、何をを目指していたのか」を語る。
出演：笹木繁男(現代美術資料センター主宰) / 日時：11月15日(日) 14:00~16:00 / 場所：岡本太郎美術館 ガイダンスホール / 定員：70名(参加費無料、申し込み不要、当日先着順)

③菱刈俊作ワークショップ『新聞紙のコラージュで顔を作る』

第10回TARO賞・岡本敏子賞受賞作家、菱刈俊作が企画した新聞紙のコラージュで顔を作るワークショップです。 / 日時：11月29日(日) 14:00~16:00 / 場所：創作アトリエ / 定員・対象：中学生以上20名(参加費無料、要申し込み) / 締切日：11月21日(土)

④ギャラリートーク

出演：佐藤美子(川崎市市民ミュージアム 学芸員)と岡本太郎美術館担当学芸員 / 日時：11月7日(土) 15:00、12月13日(日) 15:00 / 場所：当企画展示室 / 定員：約50名(申し込み不要、要観覧券)

⑤「関連施設イベント」映画『父をめぐる旅』(2012年プロデューサー共同監督・武重邦夫、近藤正典)中村正義のドキュメンタリー映画

日時：10月17日(土)~23日(金)連日14:45~ ※19日(月)休映 / 場所：川崎市アートセンター(新百合ヶ丘) / 問合せ：川崎市アートセンター / TEL:044-955-0107 / ※映画の半券で展覧会が2割引きで観覧できます。

川崎市岡本太郎美術館
TARO OKAMOTO MUSEUM OF ART, KAWASAKI

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形7-1-5
TEL 044-900-9998 FAX 044-900-9966
http://www.taromuseum.jp/

中村正義「おねえちゃん」部分
1968 愛知県美術館蔵

